

昭和52～53年度組織的調査研究活動推進事業報告書

沖 縄 県

1 調査研究活動地域名

本 部 町

2 調査研究活動地域の選定理由

本部町のカツオ漁業は同町の年間総漁獲量の50～71%を占める基幹漁業でありながら操業の形態は旧態依然として漁獲量も停滞を続けている。県下共通の悩みとして活餌の問題が指摘されているが、これらの問題を解明し積極的な漁業に改善する必要がある。カツオ漁業が沖縄県においてマグロ延縄漁業と共に最も重要な漁業であることから、本部町のカツオ漁業の振興を図ることは地元水産業はもとより、他市町村の同漁業への波及び効果が大きくなる。

3 県内における調査研究活動地域の位置付け

- 1) 本部町の現在のカツオ漁就業船数は4隻だが、将来はこれ等漁船の維持確保は勿論のこと、可能な限り増船を図り併せて効率的な操業形態を樹立することによって漁獲量が年間400トン内外にあるのを1,000トン以上にもっていくようにする。
- 2) 諸種要因から日帰り操業を余儀なくされているが、4月～10月までの現在の操業期間の漁期の延長を図り併せて漁場拡大を図る。
- 3) 沖縄本島北部地区では、本部町は名護市について漁獲量が多いが、主漁業はカツオ漁業であり北部におけるカツオ漁業の拠点基地として特に各種活餌の供給地として位置づける。

4 活動チームの構成

1) 総括責任者名

水産試験場 漁 業 室 当 真 嗣 誠

2) 研究部門担当者名

水産試験場 漁 業 室 友 利 昭之助

“ “ 久 貝 一 成

“ “ 川 崎 和 男

“ “ 金 城 武 光

3) 普及部門担当者名

水産試験場 専 門 技 術 員 新 垣 盛 敬

水 産 課 普 及 員 金 城 宏

4) 行政部門担当者名

水 産 課 漁 政 係 嘉 数 清

“ 振 興 係 宮 城 正 博